



平成19年3月12日

ZAPPALLAS

各 位

会 社 名 株式会社ザッパラス
(コード番号 3770 東証マザーズ)
本社所在地 東京都渋谷区恵比寿一丁目19番19号
代表者名 代表取締役社長 杉山 全功
問 合 せ 先 取締役執行役員管理本部長 山崎 浩史
T E L 03-5475-7133 (代表)
U R L <http://www.zappallas.com/>

通期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成18年6月15日に公表いたしました平成19年4月期（平成18年5月1日～平成19年4月30日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成19年4月期 業績予想の修正

(1) 平成19年4月期 連結業績予想数値の修正（平成18年5月1日～平成19年4月30日）

(金額の単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成18年6月15日発表)	6,809	1,005	547
今回修正予想 (B)	6,809	1,228	673
増減額 (B-A)	0	223	126
増減率 (%)	0.0	22.2	23.0
前期 (平成18年4月期) 実績	5,319	752	444

(2) 平成19年4月期 個別業績予想数値の修正 (平成18年5月1日～平成19年4月30日)

(金額の単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成18年6月15日発表)	5,726	882	474
今回修正予想 (B)	5,726	1,241	716
増減額 (B-A)	0	359	242
増減率 (%)	0.0	40.7	51.1
前期 (平成18年4月期) 実績	4,896	718	433

(3) 理由

(単体業績)

当期におきましては、各セグメントにおける収益向上の施策が期待以上の成果を得ることができ、計画を上回る水準で推移しております。デジタルコンテンツ事業に関しましては利益率の高い新規コンテンツの投入が順調に進み、デジタルコンテンツ事業全体としての利益率が上昇し、またコマース関連事業のうちモバイルコマースにおきましては、商品構成の見直し等による売上総利益率の向上の実現により、営業損失額が当初の予定より縮小させることができました。これらの結果、経常利益が当初予想を40.7%上回る見込みとなり、あわせて当期純利益につきましても51.1%上回る見込みとなっております。

(連結業績)

連結業績予想につきましても、個別の業績予想の修正が主な要因となり当初の計画を上回る水準で推移しております。携帯販売を展開している株式会社ジープラスにおいてソフトバンクショップ及びauショップの新規出店を積極的に推進しており、出店に伴う営業損失が発生しておりますが、単体における収益性の向上が当該コストを吸収し、その結果、経常利益が22.2%、当期純利益につきましても23.0%当初予想を上回る見込みとなっております。

2. 配当予想の修正について

(1) 平成19年4月期 配当予想の修正 (平成18年5月1日～平成19年4月30日)

(金額の単位：円)

基準日	1株当たり配当金		
	中間	期末	年間
前回発表予想 (平成18年12月11日発表)	—	1,100	1,100
今回修正予想	—	1,600	1,600
前期(平成18年4月期)実績	—	2,000	2,000

(注) 当社は、平成18年11月1日をもって普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成19年4月期(予想)の1株当たり配当金の数値は株式分割後の金額となっており、株式分割前の基準で比較した場合の1株当たり配当金(期末)は、3,200円、(年間)3,200円となります。

(2) 修正の理由

当社では、企業体質の強化と積極的な事業展開に備えるために、必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を実施していくことを基本方針としております。具体的には配当性向30%を目処とし、内部留保の充実及び事業投資並びに各期の経営成績等を総合的に勘案した上で積極的に検討していきたいと考えております。

上記の業績予想の修正の通り、当期の業績が順調に推移しておりますので、これまでの株主各位のご支援にお応えすべく、当期の期末配当予想を1株当たり500円増配し、1,600円に修正いたします。

(注) 本資料における業績の見通しは、当社が現時点で入手可能な情報による判断、及び判定に基づいて算定しております。従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の売上高及び利益は当該予想数値と異なる場合があることをご承知おきください。

以上